

特集



新分野への挑戦

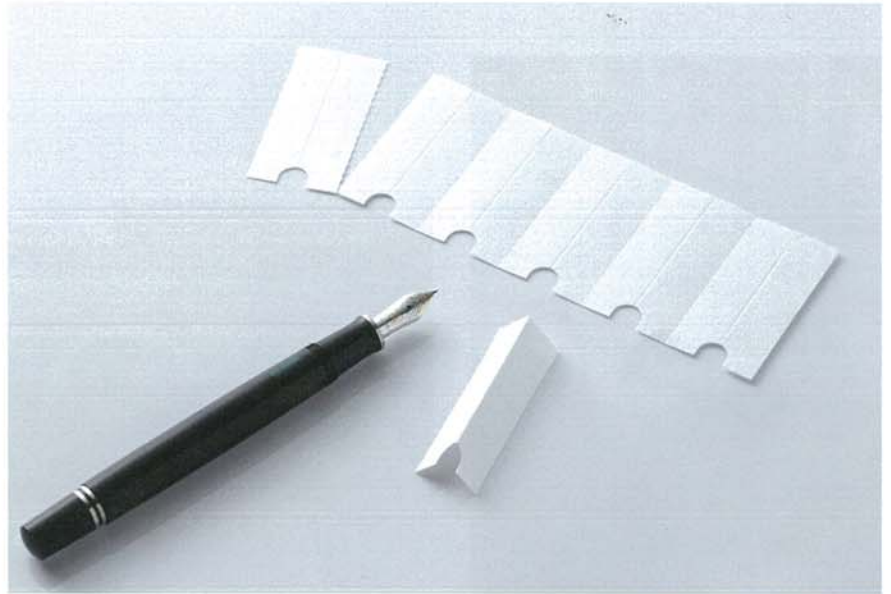


大和出版印刷株式会社

価値にこだわり、
神戸らしさを生かした
文具を製造



代表取締役
武部 健也 氏



日本文具大賞を受賞した「SUITO cleaning paper」

神戸に根差して印刷事業の経営を続ける大和出版印刷株が文具製造に動き出したのは8年前のこと。その原動力になったのは「製造業者の本能として良いものをつくりたい」という思いだった。2011年からは文具ブランド「神戸派計画」を立ち上げ、唯一無二の商品を生み出し、コアなファンを獲得している。



万年筆専用紙が完成するまでに何度も筆記テストが繰り返された

印刷もできる印刷会社

キャッチフレーズは「印刷もできる印刷会社」。祖父の代以来、印刷を軸に事業を軌道に乗せてきたが、「印刷は顧客が持つコンテンツを発信する手段の一つ。お客様の〈お客様〉へ伝わる情報発信のお手伝いが当社の役割」と代表取締役の武部健也氏は語る。印刷業のみ

にとどまらず、システム、WEBサイト、スマートフォンを活用した情報発信をお客様に提案し、「ニーズが変わればサービスも変わる」と09年以降は会社案内も毎年改訂するほど、柔軟に業態を変化させて続けている。

事業のきっかけは思わぬところに転がっているものだ。07年、万年筆好きのお客

様がつぶやいた「ほしいと思える万年筆用のノートがないので作れないか」という一言が文具製造のきっかけとなる。紙問屋から何種類か紙を取り寄せ、万年筆愛好家の評価アンケートで一位に選ばれた紙で上製本ノートを作ってみたところ即完売した。しかし、その紙が廃品となり増産を諦めかけていたところ、再び「紙を作ることはできないのか」と言われて発奮する。

万年筆専用紙を自前で作る

製紙業は設備型産業の代表格。大量生産でこそ採算もとれる。無謀な挑戦にも思えたが、紙問屋を通じて小ロットの紙を抄造できる機械が静岡県の山奥にあると聞きつけ、万年筆専用紙の開発をスタートさせた。素材、厚み、表面に塗布する填料にこだわることで、なめらかな書き味でにじみを抑えた「Liscio-1」が誕生した。ノートなどの紙商品を細々と作っていたが、この時点では文具開発を掘り下げるつもりはなかった。

しかし、ひとたび会社を取り巻く環境に目を向けると、印刷需要の低迷で過剰な価格競争が深刻化していく。「価格より価値で競争しよう」という思いを社員に伝え、自分たちが良いと思うものを自分たちの手で作ろうという決意に至りました」と武部氏は語る。



一年以上かけて製紙会社の協力により「GRAPHILO」が誕生した

その折、志を同じくする外部のデザイナーと出会ったことが後押しとなり、「神戸派計画」と名付けた文具の新ブランドを起し、文具事業へ力強く踏み出すことになった。

商品開発にあたってこだわったのは「神戸らしさ」だという。「神戸らしさとは何かを改めて考えたところ、ユニセックスではないかという結論に達しました。余計なものをそぎ落と

し、女性が持っても男性が持ってもしっくりくるものを作ろうと考えました」。

表紙と罫線を同じ色にし35色をそろえたノート「iiro」、列挙した覚え書き事項を折ることでチェック済にできる「orissi」、1ミリから8ミリ四方まで8種類の大きさをそろえた方眼ノート「recto」、万年筆特有の書き味である「ぬらぬら感」を追求してできた万年筆専用紙「GRAPHILO」など、新たな文具を次々と生み出している。「業界の常識にとらわれず、あくまでも使う側の視点で機能性や質を追求していきたい」と語る武部氏は、「難しい注文を重ねるあまり、そんなもの作れるかと製本を頼む予定だった業者にサンプル品を目の前でたたきつけられたこともあります」と苦笑する。

文具の新たな可能性を引き出し「日本文具大賞」受賞

商品開発会議では雑談が商品のヒントになることもある。

「万年筆のペン先のインク汚れはみんなどうやって拭いているのだろう」という疑問から誕生したのが、「SUITO cleaning paper」。万年筆のペン先を掃除し、きれいにするためだけに生まれた紙製品で、15年の「日本文具大賞 機能



工場では古い活版印刷機が今なお活躍している

部門「グランプリ」に選ばれた。審査員からは「書くというよりもメンテナンス用途として商品化する発想で、紙の新たな機能を見出した」「ペン先を拭く行為をいかに美しく行うかまでを考え、モノづくりに工夫がされている」と、まさに「神戸派計画」が目指すモノづくりの考え方が評価された。「神戸派計画」として送り出した商品はこれまでに約300点に上る。

こうした商品開発におけるデザインや技術力が評価され、オリジナルの紙製品やこだわりのノベルティを作りたいという依頼が多く舞い込むようになった。そこで立ち上げたのがOEM専門に対応するサービス「神戸派工場」だ。さらにはこれまで送り出してきた商品や社員たちでこだわりの逸品を仕入れて販売するオンラインショップ「神戸派商店」も開設するなど、事業は拡がりを見せている。「小ロット多品種で勝負し、協力会社とも思いを共有しながら神戸という地域にこだわったオリジナル商品を送り出していきたい」とこれからも価値あるモノづくりを続けていく。

DATA

大和出版印刷株式会社
代表取締役 武部 健也
事業内容：各種出版物の印刷、文具製品の企画・開発・製造
所在地：神戸市東灘区向洋町東2-7-2
電話：078-857-2355
<https://www.d-wa.co.jp/>
神戸派計画
<http://kobeha.com/>